

# 富山県射水市立太閤山小学校

## (概要)

### (経緯)

太閤山小学校は、(旧)太閤山小学校と橋下条小学校の統合校として新設された学校である。

橋下条小学校では、施設の老朽化に伴い改築を検討していたが、小規模校(6学級)であったことから、(旧)太閤山小学校と統合し、児童の教育環境の改善を図ることとした。

なお、本校は平成16年度に、エコスクールパイロット・モデル事業の認定を受け、自然環境との共生や、新エネルギーの活用等の環境保全の大切さを学ぶ施設として整備を行った。



- ・ 児童生徒数(クラス数) : 536名(19クラス)
- ・ 構造・階・面積・事業費 : 鉄筋コンクリート造、2階建て、7,343㎡、25億円
- ・ エコスクールの事業タイプ : 太陽光発電型  
省エネルギー・省資源型  
木材利用型  
自然共生型  
その他新エネルギー活用型
- ・ 整備期間 : (検討期間 : H12.2~H16.4、工事時期・期間 H16.6~H18.3)

(エコスクール化の内容)

【整備事例 1】

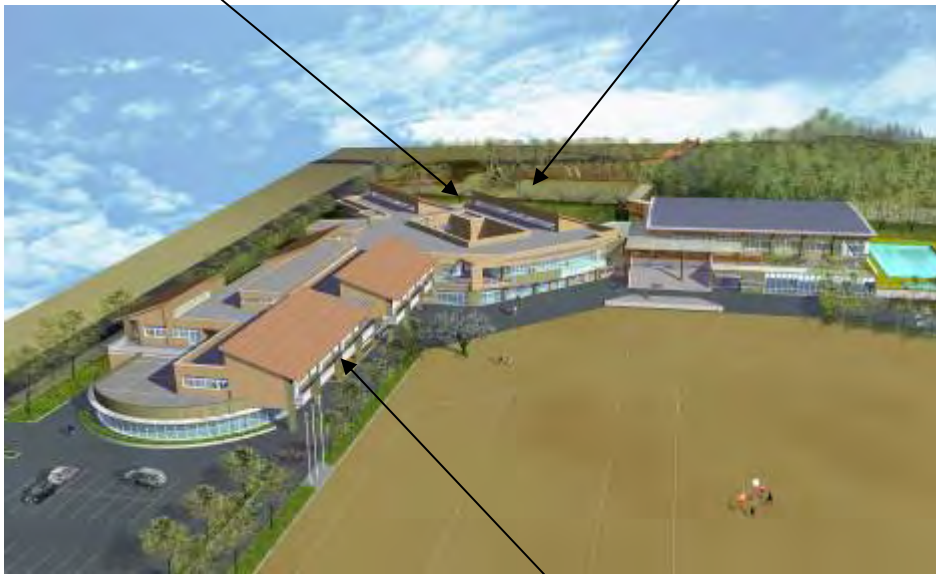


○自然や環境について学習するために設置した  
ビオトープ

【整備事例 2】



○屋外学習施設に設置した風力・太陽光発電の  
新エネルギーを使った外灯



【整備事例 3】

○部分的な吹き抜けや、  
ハイサイドやトップライトを  
設けた自然採光。

○木材を利用した  
暖かみある空間。

### 1. ビオトープ【整備事例1】

- (1) 校舎棟と屋外学習施設の間を通る用水路を、親子が寄り添うイメージで配置した。
- (2) 用水路はコンクリート製であるが、自然に近い水路となるよう配慮した。
- (3) 用水路の水量が一定でなく、安定した水の確保に課題がある。
- (4) 用水路は土地改良区が管理しているため、取水方法や水量について十分協議する必要がある。

### 2. 風力、太陽光発電による外灯【整備事例2】

- (1) 屋外学習施設を地域交流広場として開放し、児童や地域住民の環境教育に活用するため、新エネルギーを使った外灯を設置した。
- (2) 雪国における太陽光発電は課題も多いことから、風力発電を併設し、年間を通して機能する外灯を選定した。
- (3) 児童や地域住民に対する環境の意識改革の掘り起こしを検討したい。
- (4) 施設を環境教育の教材として具体的にどのように活用するか課題となっている。

### 3. 自然採光、木材利用【整備事例3】

- (1) オープンスペースや普通教室にはハイサイドライト、図書室にはトップライトを設けて明るく開放的な空間とした。また、内装材に木材を使用し暖かみのある空間とした。
- (2) ハイサイドライトは高所に設置するため、カーテン、ブラインド等の遮光設備を電動とした。
- (3) 日差しが強いときの合理的な遮光方法について、今後検討する必要がある。
- (4) 採光面積や遮光方法について、ランニングコストを含めた検討が必要である。

(エコスクール化の効果、環境・エネルギー教育への活用)



(ビオトープに触れる子どもたち)

最近では減ってきている小川に触れ、そこに住む生き物を観察することで命を大切にする心を育む。

(小川のビオトープを描いた絵)

小川のビオトープで体験したことを、絵に描くことで子どもの記憶に深く残る。



(環境の大切さを教える特別授業)

地球温暖化のメカニズムや太陽光発電、風力発電など子どもたちが関心を持つ授業を実施。

(木材を利用した廊下での風景)

オープンスペースに本棚が設置してあり、自由に本を読む児童。

